

**製品名: エフリン B1/2 (リン酸化 Tyr329) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04618**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	EFNB1/EFNB2
別名	EFNB1; EFL3; EPLG2; LERK2; Ephrin-B1; EFL-3; ELK ligand; ELK-L; EPH-related receptor tyrosine kinase ligand 2; LERK-2; EFNB2; EPLG5; HTKL; LERK5; Ephrin-B2; EPH-related receptor tyrosine kinase ligand 5; LERK-5; HTK ligand; HTK-L
遺伝子 ID	1947/1948
SwissProt ID	P98172/P52799
免疫原	抗血清は、ヒトエフリン B1/B2 の Tyr329 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 295-344

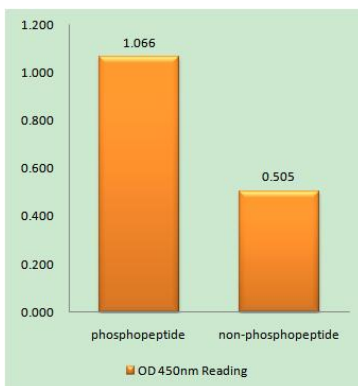
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質はI型膜タンパク質であり、Eph 関連受容体チロシンキナーゼのリガンドである。細胞接着に関与し、神経系の発達や維持に機能する可能性がある。[RefSeq 提供、2008年7月],疾患: EFNB1 の欠陥は、頭蓋前頭鼻症候群 (CFNS) [MIM:304110]の原因となる。頭蓋前頭鼻異形成症 (CFND) としても知られる。CFNS は、眼間開離、短頭症を伴う冠状癒合、眼瞼下垂、鼻尖裂、関節異常、爪の縦溝、その他の指先異常を特徴とする X 連鎖遺伝性症候群である。機能: 受容体チロシンキナーゼ EPHB1 および EPHA1 に結合する。in vitro において、交連軸索 / 成長円錐に結合し、その崩壊を誘導する。縦方向に突出する軸索の配向を束縛する役割を果たす可能性がある。誘導: TNF- $\alpha$  による。PTM: 細胞質ドメインのチロシン残基の誘導性リン酸化。類似性: エフリンファミリーに属する。サブユニット: GRIP1 および GRIP2 と相互作用する。組織特異性: 心臓、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、脾臓。、

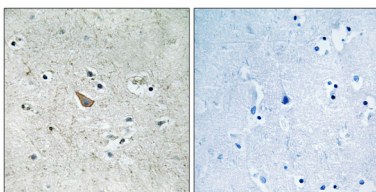
## 研究分野

軸索ガイダンス;

## 画像データ



エフリン B1/B2 (リン酸化 Tyr329) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



エフリン B1/B2 (リン酸化チロシン 329) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。